

臨地実習（感染看護学）

[実習] 通年 選択 180時間 4単位

《担当者名》 塚本 容子 [yokot88@hoku-iryo-u.ac.jp]
山田 拓 [yamada_k@hoku-iryo-u.ac.jp]

【概要】

感染看護学特論・演習で学習したことを活用しながら、高度実践看護師としての能力を獲得するための実習課題を明確にし、臨床現場において統合的な実習を行う。実習指導者のスーパーバイズの下で、感染症を持つ患者への看護実践そして医療関連感染サーベイランスを計画し、実践する。その実践の中で、コンサルテーション、調整、倫理調整、教育を経験する。専門看護師の役割開発について探求する

【学修目標】

- 1) 主要な感染症を持つ患者の身体的・精神的アセスメント、介入、評価に関してケアプランを作成し、高度実践看護師として実践する能力を養うことができる
- 2) 医療関連感染サーベイランスを計画・実施し、患者個人に対してのみでなく、感染症予防・管理として集団に対して公衆衛生学的知識を用いて、アセスメント・介入・評価に関して計画し、それを実践する能力を養うことができる
- 3) サーベイランスのフィードバック活動を通じて、医療施設内での教育活動を行い、今後の課題を明確にする
- 4) 実習指導者の活動を通じて、看護職や多職種との協働の実際、そして高度実践看護師としての調整の役割を担うのか考察できる
- 5) 実習指導者の活動を通じて、コンサルテーションがどのように行われているのか（課題の明確化、目標設定など）を知り、実際に実習指導者のスーパーバイズの下、コンサルテーションの事例を受けもつ

【学修内容】

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|------|---|----------|
| | 臨地実習 | <p>【実習方法】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 高度実践看護師としての自身の学習課題を明確にし、実習目標を到達できるように、実習計画を立案する2) 医療関連感染サーベイランスにおいては、事前に教員と実習指導者が相談しながら、実施可能な内容を決定する。それに基づき、学生はサーベイランスの計画書を立案する。3) 実習指導者及び教員の助言を得ながら、実習計画に基づき、実習する4) 実習内容及び学びについて、日々実習記録に整理し、実習指導者から助言を得る5) 実習課題の達成を図るために、実習の中間において、実習指導者、教員、学生でカンファレンスを設ける。カンファレンスに当たっては、学生は実習課題に関する資料を作成する6) 感染症を持つ患者または易感染状態の患者を受け持ち、包括的なアセスメントを実施してケアプランを作成し、治療について検討する。あわせて倫理的な問題を考察する7) 実施したサーベイランスの結果を、実習指導者と相談しながらフィードバック対象者を選定し、フィードバック及び今後の改善点について、教育活動の一環として実施する8) 実習期間中に、適切なコンサルテーションの事例がない場合は、過去の事例を実習指導者から提示してもらい、紙面上でコンサルテーション案を作成し、指導者よりアドバイスを受ける9) 実習終了後には、実習課題の到達度について、課題レポートを作成する <p>【実習期間】 おおむね4週間 但し、集中実習か分散実習かについては、学生の実習課題や学習状況により相談、決定する</p> | 塚本 山田 |

| 回 | テーマ | 授業内容および学修課題 | 担当者 |
|---|------|--------------|-----|
| | 実習場所 | 斗南病院、北見赤十字病院 | |

【授業実施形態】

面接授業と遠隔授業の併用

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

実習評価表（40%）、報告書・レポート及びプレゼンテーション（60%）を総合して、評価

【学修の準備】

必要な文献・資料等に目を通しておくこと